

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

# KEIWA

## COLLEGE REPORT

第15号

(JULY 1998)

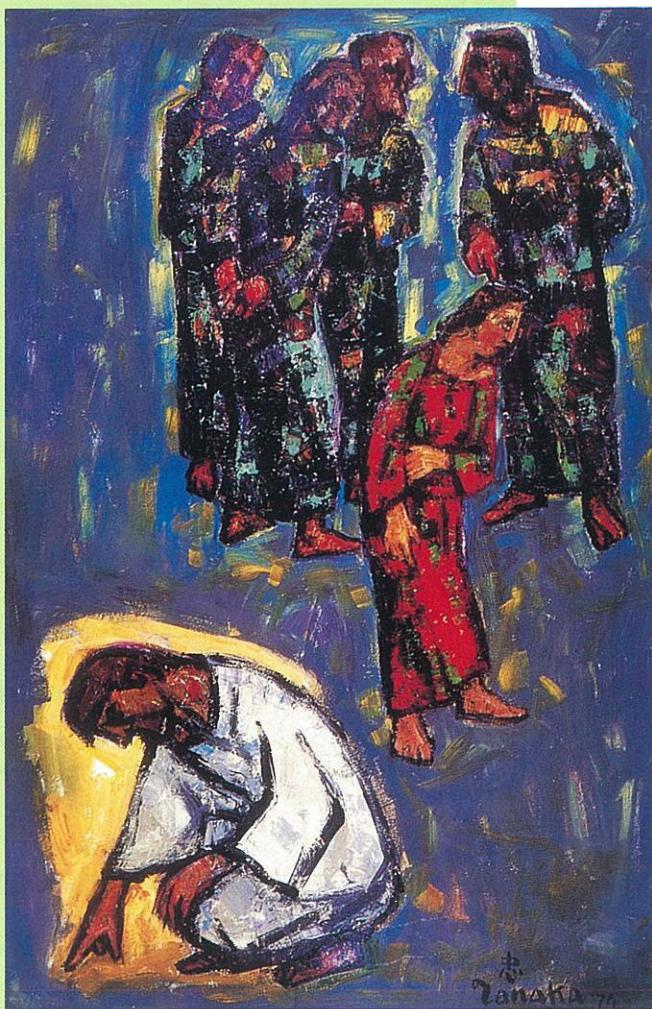
発行/敬和学園大学広報委員会

CLOSE UP

### 敬和学園大学をよくする ための私の提案

安藤司文

新任教員自己紹介／将来に向けての就職活動  
生涯教育社会における大学教育／田植えボランティア報告  
一九九八年度入試の結果と一九九九年度入試の概要／後援会だより



写真は、4月4日(土)に新発田市生涯学習センターで開催された「新入生歓迎公開学術講演会」での、一橋大学阿部謹也学長です。これから大学での勉学に意欲を燃やす新一年生に対し、「いかにして教養を身につけるか」というテーマで講演いただきました。

当日は過去最高の70名を超える一般市民の方もご参加いただきました。

この講演に出席した学生が卒業する21世紀に、敬和学園大学で身につけた教養をどう社会に還元してくれるのか、非常に楽しみです。



## もくじ

|   |   |                         |    |
|---|---|-------------------------|----|
| 敬和学園大学をよくするための私の提案<br>安藤司文              | 1 | 保護者就職懇談会のお知らせ           | 8  |
| オープンキャンパスのご案内                           | 3 | 1998年度敬和学園大学公開講座「知の探求」  | 9  |
| 新任教員自己紹介                                | 4 | 1998年度入試の結果と1999年度入試の概要 | 10 |
| 生涯教育社会における大学教育<br>—放送大学との単位互換にあたり— 山田耕太 | 6 | 私のゼミ紹介 北嶋藤郷             | 10 |
| 田植えボランティア報告                             | 7 | クラブ紹介 軟式野球部 藤田勝彦        | 11 |
| 新入生オリエンテーション報告                          | 7 | 後援会だより                  | 12 |
| 将来に向けての就職活動<br>—昨年度の結果と現状を踏んで—          | 8 | 学事予告                    | 13 |
|   |   | 寄付者ご芳名                  | 13 |

# 敬和学園大学を よくするための私の提案

教授 安藤 司 文



- 3 2 入学試験制度は個人面接を中心にする
- 3 1 新入生のためのフレッシュマン・コースを設定する
- 4 1 一年生から四年生までゼミを通して教員と学生がコントクトを持つ
- 5 1 インターネットで学生と教員のコミュニケーションを密にする
- 6 1 放送大学を活用する
- 7 1 論文作成の指導を通して知的なトレーニングをする
- 8 1 多様な専門コース制を設定する

## はじめに

「どうすれば敬和学園大学をすばらしい大学にすることはできるか」というテーマに私たち教員は全員で真剣に取り組んでいます。私たちは西暦二〇〇〇年を抜本的な改革の年としてねらいを定め、検討を進めています。ここに私の個人的な提案を示し、参考にしていただけたらと思います。まず要点を箇条書きで示してみましょう。

1 敬和学園大学に入学すると「自分でイキイキ勉強する」ようになる

## 大江健三郎に学ぼう

従来の大学では体系的な知識を教え、学生にその知識を正確に習得する能力を養うことを中心にして教育が行われてきました。

しかし私は大学教育の大切なポイントとして、学生に「自分で問題を発見する能力」を涵養することに重点をおくべきだと考えます。学生一人一人に、この大学でやりたいことを発見させたいのです。目標や理想、絶えず接触をはかっていく必要があります。

夢を見付けさせたいのです。このことを大學教育の柱として、教育プログラムの中に組み込む努力をしたいものです。大江健三郎氏は知的障害をもつ長男といつも机を並べて仕事をし、ついに作曲の才能を見付け、それを開花させました。私は多くの学生に大江氏と同じだけの時間を割くことはできませんが、基本的な考えは参考になると思います。学生の能力を発見し、これに適した問題を与える、自分から問題に取り組む姿勢を持たせることです。「学生が自分で自分のテーマを見付けて、自分でイキイキ勉強する」ようになることを目標にかかげる、というのが私の提案の第一です。

独創性はこれから的学生に要求されいる基本的な特質です。それには「問題発見→解決策（仮説）の提案→有効性の実証」という道筋を辿る必要があります。この道筋に学生が乗ってくるよう助けるには、四年内にわたり、ゼミを通して教員と学生が絶えず接触をはかっていく必要があります。

さいわいコンピュータの発達が著しく、放送大学との単位互換もできるようになり、インターネットで海外の有名大学の講義も聽講できるようになりました。

## 学生の自分史を重視しよう

従来の入学試験は、たとえるならば次のようなものだと私は思います。砲丸投げをやりたい人、相撲を目指す人、マラソン選手を目指す人全部を一緒にして、全国一齊に一〇〇メートル競争を行い、それで選抜してきたのです。私たちの大学で教育したい学生は、本質的な問題点を直観的に感じ取り、それを解決しようと努力する学生です。漢字が読めなくとも、英語ができなくとも、小説家のような鋭い感性がなくても本質的にはあまり問題はないでしょう。では、このような素質を持った学生をどのようにして発見するのか？これは従来のようないつも入試ではできないことです。そこで私は一つのやり方として、次のような方法を提案します。

まず自分史を書いてもらいます。そのさい、それまでにもらった賞状などがあれば、それもついで出してもらいます。そして、本学の教員と相談して一冊の本を選びます。それを半日かけて読んでもらい、その本を中心に教員といろいろ話し合います。そうすれば、われわれが希望する素質を持つているかどうかはすぐ分かります。すべての学生をこの方法で選抜するわけにはいきません。まず両学科から十名ずつ、計二十名を選抜してみてはどうでしょうか。その場合、ぜひ奨学金を付けてほしいものです。

## 考え方のトレーニングを実施しよう

現在の高校教育における諸悪の根源は、文部省が決めた教科書で全国一齊に同じことを教え、ほとんど同じことを回答するよう教育しており、多様性を認めないことであります。創造性は多様性から出てきます。朝日新聞の「天声人語」にのっていた話ですが、ある絵本に対する子どもの読後感想文に「このおじさんは悪いおじさんだと思います。あ、いや、やっぱりいいおじさんだと思います。やっぱり悪いおじさんだと思いません。やっぱりいいおじさんだと思いません」というのがあり、絵本の作者はそれを読んで物凄く嬉しかったそうで、その子の顔までアリアリと想像したということでした。マークシートにマークをつける能力よりも、この子のように、あれやこれやを考えることが大切です。こういう学生と机を並べて勉強したいと思います。

私は学生諸君に、自分の部屋で机の前に長時間座って、静かに本を読んだり、ものを書きながら、考えをまとめる習慣とすることを、なんとしても身につけてもらいたいのです。これは現代の若者には苦痛でしょうが、これを大学で訓練するとすれば、フレッシュマン・コースで実施したいと思います。つまり図書館にあるブースのような、周りを囲った机と、ゆったり座れる椅子のある教室を設け、少なくとも午前中一杯はそこで、与えられた科目を集中的に自分で勉強させるのです。教科書としては放送大学の「アメリカの言語と文化」

のようないいでしょう。これはまるでアメリカの大で英語の講義をきいているようなものです。教科書もビデオも充実したものです。これならば学生も興味をもつて、自分で勉強できるようになるでしょう。右に述べたことは、一挙に全新人生に、というわけにはいきませんから、最初は各学科から三十名、計六十名程度を選んで実験してみてはどうでしょうか。それともう一つ、「考え方のトレーニング」を提案します。本に読まれるのでなく、本から本質的な知識を引き出し、創造的に読んでいくには、ノートの取り方など特別なトレーニングが必要です。教員それぞれが、それぞれ自分の方法のエッセンスのようなものを学生にぶつける覚悟も必要になるでしょう。

## ゼミ中心の教育を

私の考えでは各教員は一学年十名、四年で合計四十名程度の学生を担当することにし、毎週教員と学生が顔をあわせ、学生にそれぞれのテーマを追求させ、またディベートを通して議論を戦わせるようにしたいと思います。このためにはもちろん、教員ゼミ教育についての勉強会を積み重ねる必要があります。意欲的な学生にはゼミを複数履修させてよいと考えます。

## 学生と教員のコミュニケーションツールとしてのインターネット

現在すでに学内 LAN が敷設され、インターネットに接続されています。すべての学生に ID 番号とパスワードを発行する予

# CLOSE UP

定ですので、全世界の人と自由に情報を交換することができます。インターネットはまず身近な人との情報交換に活用したいものです。これまで教員と学生の間のコミュニケーションは十分であったとはいえないが、インターネットをうまく利用すれば、学生と教員の間にもっと緊密な信頼関係が構築できるかもしれません。両者は電子メールでいつでも情報を交換できます。

教員だけでなく、学生一人一人がホームページを持てば、誰が何を研究しているか、何をめざしているかがすぐわかるようになります。これに習熟すれば、世界各国の学生との交流が次のステップです。インターネットで代表される情報ネットワークを存分に活用して、学生の知的な能力向上をはかりたいものです。

## 世界中の放送大学を活用しよう

学生諸君の関心を持つ範囲はきわめて広く、小人数の教員しかいない本学では対処できません。そこで放送大学の恩典に進んで参入し、学生たちにもその利益を宣伝したいのです。放送大学の教科はわかりやすく、しかも丁寧に準備されており、視聴覚を通して攝取できるので、安心して学生に奨めることができます。放送大学は日本だけでなく、世界中にたくさんあるのです。ここでもインターネットを通じてアクセスできます。大学としても、設備を充実させることが大切でしょう。

## 論文作成が 知的トレーニングの基本

大学で学生に知的な体力をつけさせるには、論文を書かせ、発表させ、修正したり、討論させたりすること以外には方法があります。これは実にたいへんことですが、私たちもそれをやるべきだと思います。これが背景にあるのはあくまで、「問題発見→解決策（仮説）の提案→有効性の実証」という普遍的なプロセスです。これが新しい知識を生み出すのです。そして学生を知的に鍛えるのです。

## リベラル・アーツ・カレッジの 中での重点化の必要性

本学はリベラル・アーツ・カレッジを標榜しています。広い立場からものを考えようというわけで、これはきわめて重要なことです。私はそれを前提とした上で、なんらかの集中分野を持つことの必要性を感じます。キリスト教関係のように三名の教員がいる分野では、その三名で一つの専門コースを設定します。同様に政治関係、歴史関係、文学関係でもそれぞれ専門コースが設定できるでしょう。私はこうしたコースが硬直化することなく、柔軟なシステムとして機能することを願っています。実社会で成功を収めたひとを教員として迎えることも非常に有効だと考えます。

## おわりに

以上は私としてはきわめて常識的な改革案です。

まず、出来るところから始めましょう。フレッシュマン・コースや四年一貫ゼミなどは異様に思われるかも知れませんが、要するに、本学にきた学生が、入学してよかつたと思うような大学にする、ということが決め手になるはずです。皆様のご意見を拝聴したいものと願っています。

## オープンキャンパス のご案内

大好評のオープンキャンパスを今年は八月と九月の二回実施いたします。主に高校生を対象としていますが、保護者の方や本学に関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。

当日は大学紹介や入試説明に加えて、「外国语の敬和」を実感できる体験模擬授業、在学生による大学案内・施設設備見学会なども予定しています。

日時 (第一回) 八月一日(土)

(第二回) 九月一二日(土)

いずれも一三時より一六時まで

お申込み先

教務課入試係

(0120-126-3637)

お申込みをされた方には送迎バスの案内等、より詳細な資料をお送りします。

# 新任教員 自己紹介



## 松本ますみ

(助教授)

本年度からアジア史と中国語、文化論演習一を担当することになりました。出身は金沢市です。新潟市と同様に緑豊かな城下町で十八歳まで過ごしました。

私がアジアに興味を持ったきっかけはちょっと変わっています。小学校五年生の時に、母に連れられて行った中国物産展で一枚の刺繡のれんに釘付けになりました。当時、刺繡が日課だった自分が一月かけても完成できないであろう精緻な技術に目を見張り、制作者の女性が費やした長い時間と根気にも大きな矛盾と思えました。当時、日中正常化はされておらず、中國やアジアは一般日本人の興味の対象外にありました。このれんを作った無名の女性の生活と社会に思いを寄せることが少なかった私は中国、アジアへの無限の興味を搔き立てられたのです。

大学で東洋史を専攻したのも、お隣の中国とアジアの歴史・文化を知りたかったからです。学部では中国近現代史と中近東史に力を入れて勉強し、多様な価値観をもつて、アジアの深みにのめり込みました。さらに、世界の中のアジアの位置を知ろうと、修士課程では国際関係学を専攻しました。博士課程修了時の博士論文では、中国の少数民族政策を歴史的、思想的に辿ることによって、中国の統合論理を解明しようとしました。

来世紀はアジアの時代と言われています。日本人のアジアに対する興味、関心は飛躍的に増し、アジアとの物的、人的交流も盛んで、情報も溢れています。敬和でもアジアの留学生が皆さんと一緒に勉強しています。かつての私がモノからしかアジアを知ることができなかつた時代とは全く異なります。だからこそ、私たちは相互理解のためにアジアの文化、歴史を知ることが必要です。過去を未来にどのように繋げていくのかを考えるのは皆さん一人一人です。皆さんにそのためのヒントを提供できれば幸いです。



## 中村 義実

(専任講師)

英語教師を血となり肉となるものにするためには、教員の側に、学習者を導くための確固たる人生哲學が要求されるのではないか。そんな思いから、アーティスティックな表現を通じて、世界中の人に喜んで貰いたい。

アメリカ留学という「武者修業」をスタートさせたのが、今を遡ることおよそ六年前でした。埼玉県で六年間勤務してきた高校教員の職を辞し、三十という歳での決断でした。アメリカ映画のロマンチズムに、多大な影響を受けていた頃の話であります。以後、今年の三月半ばに帰国するまで、首都ワシントンで生活を送ってきました。前半は大学院で勉強し「異文化コミュニケーション」の研究に焦点を当てました。後半は大学で日本語を教える仕事に携わりました。ワシントンは、自分が外国人であることを忘れてしまうほど、多くの人種が寄り集まってできている社会です。平和な日本では考えたこともなかつた社会問題を目のあたりにし、また窮屈な日本では感じるとのできなかつた自由さも同時に味わいました。

アメリカ生活を送る中で、私自身の日本人としてのアイデンティティは次第に深まってゆきました。豊かな人間関係は、相手文化を理解しようとする態度もさることながら、自らを育んでくれた「自文化」への理解、感謝、尊敬を土台にして築かれるものだということを認識したからです。コミュニケーションの真の醍醐味は、お互いが異文化から新しい価値を建設的に学びあうところにあるものです。自己的理解はそのための前提となるでしょう。

本年度より、敬和学園大学に新しい職を得て、大変光栄に存じております。出身は同じ新潟県(上越市)ですので、故郷に帰ったよな気持ちを抱いてます。今でもアメリカ映画をよなく愛していますが、久しぶりにぶれる日本の自然美や伝統美の再発見に、今ひとつ興味が沸いています。「足下に泉あり」を信条にして、私でできることから精一杯とりくんでゆくつもりでどうぞよろしくお願ひします。

## ◆新任教員 自己紹介

# サビーネ・コントレック

Sabine Koschorreck



私は、およそ新発田と同じくらいの大きさの、ドイツでは最も古い都市として知られるトリーアで生まれました。家族によれば、私の母は誕生ばかりもつて何かが起ったことの予兆だったのだそうです。というのは、私は一刻も早くこの世を見たいと、予定より二ヶ月早く生まれたのです。それからはずっと出ようとする人生を送ってきました。最初は十五歳の時、交換留学生としてスコットランドへ行き、その後、十八歳でカリフォルニアへ行きました。そこではただで宿泊する代わりに、家事手伝いをして六ヵ月暮らしましたが、ドイツへ戻ってくると、教師になるために英語を勉強することが自然だと思われました。一年後、私はワシントンのジョージタウン大学で文化人類学を学んでいました。やがて、住む都市とともに私の専攻科目も変わっていき、最終的には、数年間チュービング大学で文化人類学と比較言語学を学びました。メキシコやグアテマラにフィールドリサーチに出かける私を見て、家郷を離れるよう運命付けられた娘という家族の見方は強化されることになり、やがてはアメリカ人と結婚してアメリカの地に移り住むことになったことは、この予兆が正しかったことを裏づけたのです。アメリカでは難民、ホームレスの人、虐

げられた女性たちと一緒に働き、彼らに文化の諸問題や英語を教えました。ドイツ人である私は外国人であるが故に、これら故郷を追われた人々や社会的弱者に深い共感を感じ、文化のはざまにいる人々と一緒にいるようにすらなりました。過去十年間、私は心の中に二つの文化を持って生きてきました。素晴らしい経験もとんでもない経験もすべて様々な価値観が交錯する世界から得てきました。時には文化的な洞察力が自然に与えられることもあります。しかし、時には大失敗して、カルチャーショックの真只中にいる典型的な新人のように感じたこともあります。

三番目に定住するここ日本でも、必ずしも何事もうまくいくわけではありませんが、いわば橋がかけられたような気がします。

日本の多くの文化的な面は母國ドイツを思い出させますが、他の面はとてもアメリカ的に見えます。けれども、それはすべて日本の文化なのです。限られた時間ではありますが、ここで日本の文化や言語をたくさん学び理解していくたいと願っています。日本に来るということは、一ヵ月早く生まれた娘に備わった運命だと両親は思っているのではないか。私は、「私は自分の住むことになった国を理解することがあるだろうか」と問い合わせています。そんな私は折りにぶれて、白黒写真で自分の経験を記録に残したいと考えてきました。多分日本から始める」となると思います。

# ブリハン

Kelly Brehan



私はアメリカ、ワシントン州のシアトルで生まれました。私は一人の兄弟と三人の姉妹がいます。

十五歳の時、交換留学生として六ヵ月間メキシコに住み、そこで英語教師への憧れを持つようになりました。その後アラスカ州アンカレッジのアラスカ太平洋大学で、バレーボール種目での体育奨学金を受け、異文化間コミュニケーションを専攻し、一九八九年にBAの学位を取得しました。卒業後アメリカ合衆国平和部隊に入ることを決心し、二年間ミクロネシアのボナペ島で過ごしました。村の小学校でボランティアとして英語を教える傍ら、教会の女性グループで縫物の企画を支援しました。私は生活を通して、ボナペの人々の言語や文化を学びました。帰国後バーモントのプラットルボロの国際教育大学院に進学し、英語教授法でMAを取得しました。新発田へ来るまでは、静岡県浜松市で三年間過ごし、四季語学学校とカルチャーセンターで初めての仕事をしました。静岡では他に、ホンダ、ヤマハ、ズキの会社で、幼児からお年寄りまであらゆる世代の人々に、英語だけでなくスペイン語も教える機会がありました。私は静かで山の見える新発田が好きです。私の趣味は刺繡をしたり、自転車に乗って出かけます。

# 生涯教育社会における大学教育

## 一 放送大学との単位互換にあたり

教務部長 山田 耕太

十八歳人口が一九九二年の二百万人強をピークにして激減期に入り、一〇一〇年に百三十万人にまで減少することが予想されています。他方では、「いつでも、どこでも、だれでも」学習できる生涯教育社会が到来しています。このような二つの潮流が関連し合って、高等教育機関が互いに連携すると共に、大学教育が生涯教育の一環として見直されつつあり、変革の時代に入っています。すなわち、大学は学校教育の終わりの場としてのみでなく、生涯教育の始まりの場としても位置づけられてきています。さらに社会人の再教育（リカレント教育）の場としても見直されてきています。大学は外国人留学生をも含めて多様な要求をもつた学生を受け入れて、教育・研究の場を提供し、その使命を果たさなければなりません。その為に制度やカリキュラムを弾力化し、また改革する必要に迫られています。

本学が今年度の後期から放送大学との単位互換制度を導入するのも、将来に向かう大きな潮流に対応する一連の改革の一つです。単位互換制度とは、協定を結んだ大学間で互いに他大学で修得した単位を、自大学の卒業に必要な単位（一二四単位）として認定し合う制度です。既に本学の学則では、将来のことを想定して、文部省の大学設置基準で定めた三〇単位まで、他大学との単位互認を認める項目が記されてきまし

た（学則第二七条第二項、一九九八年度版「学生便覧」一〇六頁）。しかし、今まで具体的に他大学との単位互換協定を結んだことはありませんでした。今回初めて本学は放送大学と単位互換協定を結んで実施することになりました。放送大学と単位を互換している大学は、現時点で六百程の大学の中でも七十校程で、短大を含めるとその倍近くになります。新潟県下では初めての試みです。

放送大学は「いつでも、どこでも、だれでも」学習できる生涯教育型の大学です。本部は千葉市にあります。朝六時から夜十二時まで放送されるテレビやラジオの視聴と通信指導で学ぶ大学です。イギリスのオーブン・ユニヴァーシティや南アフリカ大学はこのタイプの大学です。所定のコースを終えると学士号が与えられます。放送大学が視聴できる所は、最近まで関東地方の一部とケーブル・テレビが見れる所に限られていきました。しかし、今年一月からCS放送（BS放送とは異なる）で放送され（パークエクトTV、一〇五チャンネル、無料）、CS放送が受信できるアンテナとチューナーがあれば、全国のどこでも受信できるようになりました。CS放送の受信設備がなくとも最寄りの学習センター（新潟大学医療技術短大の一角）でテレビ、ビデオ、テープを視聴して学習することができます。また、ビデオ等の貸出しもしています。本学

でも学内で学生が放送大学を視聴できるようになります。また、ビデオを貸出すことも検討中です。すなわち、小規模な学習センターの機能を備えるわけです。

本学はカリキュラムを多彩にするために、放送大学の三百余りの科目のうち、本学のカリキュラムと重複せず、それを補うと認められた一〇一科目を卒業要件単位（原則として自由科目）として認定することにしました。放送大学は二学期制で、第一学期と第二学期は同じ内容を繰り返し、四年毎に科目の内容を改訂します。全ての科目が半期二単位十五週で構成されています。本学の学生は入学料は無料。授業料は一科目八千円。単位を取得すると本学から報奨金として四千円が支給されることになります。履修登録は登録期間中に本学で行う予定です。配布されるテキスト（既に図書館にかなりの科目が入っている）とCS放送（またはビデオ等）で学習し、八週目に課題が出され通信指導を受けることになります。それに通ると学習センターで試験を受け、合格すると単位が認定されます。本学の学生が放送大学の単位を取得するばかりでなく、新発田や新潟の放送大学の本科生が特別聴講学生として本学に受講に来る日も近いことでしょう。

尚、本学では社会人の為に社会人入試制度の他に、科目等履修生制度があります。社会人、主婦、退職した方等が学びたい科目だけを選んで学べる制度です。短大や大学で得た単位に重ねて合計四年以上在学し、一二四単位揃えて学位授与機構に申請すると、学士号が得られる道も開かれています。

# 田植えボランティア報告



爽やかな五月晴れに恵まれた去る五月十六日の土曜日、聖籠町真野地区の田んぼで、敬和学園大学の学生と教職員、卒業生、それに新潟NGOとJA聖籠支店からの応援組も加えて、総勢二十名による「田植えボランティア」が行われました。

これは、もともとは同地区に田んぼをもつ(有)下越農耕(代表、能登惣一郎氏)さんが、せっかくおいしいお米が取れる田んぼがあるのに、生産調整のために休耕田にしたり、青刈りするのは何ともやるせないし、田んぼも荒れてしまう。それならば、ここで作付けしたお米をいま深刻な食糧危機で

困っている北朝鮮の子供たちへの援助米にしたらどうかということで、「新潟NGO 北朝鮮子供支援連絡会」(代表、春名康範)を通じて、敬和学園大学に「田植えボランティア」の協力を呼びかけたもの。そこで大学の「ボランティア・センター」が窓口となつて学生を募集したところ、さっそく十二名の応募があり、それに教職員も加わって今回田植えの実現となりました。

当日は、「北朝鮮救援耕作田」として登録された十三アールの田んぼに、半分は機械を使って、もう半分は手植えで植え付けを行いました。学生たちはもちろん機械を使うのも、田んぼに入るのも初めての体験でしたが、一小時間もすると、手植えのスピードもぐんぐんとアップ。

終了後は、下越農耕さんのご好意により、田植えを祝う餅つきと「せなぶり昼食会」が催され、学生たちは自分たちでついたお餅と用意して下さったおにぎりを口いっぱいにはおぼっていました。

学生たちは、この後、夏の草取りと秋の稲刈りまでを自分たちの手で行う予定です。そこで収穫したお米が新潟港から出港して、北朝鮮の子供たちの手に届くのはそれほど先のことではありません。そこまで見届けたいと、学生たちはいま思いはじめていました。

本学では毎年年度初めに新入生全員を対象として、黒川村胎内で一泊二日のオリエンテーションを実施しています。このオリエンテーションは、新入生諸君が建学の精神であるキリスト教主義の理念にふれることと、参加者相互の親睦を深め、敬和学園大学の一員としてできるだけ早く学生生活に慣れ、四年間を有意義に過ごすことができるようなどいうことを目的としています。今年は夏日のよだなが四月二十三日、二十四日に、新入生二二八名、教職員二十三名が参加して行われました。二十三日は開会式で始まり、北垣学長の心温まる歓迎の挨拶、続いて両学科のゼミ紹介があり、ウイリアムズ、金山、神田、大海の各先生のユニークなゼミ授業の様子が紹介されました。次に、安藤、プラウン、益谷、松本、永野、中村、斎藤、柴沼の各アドバイザーの先生方と学生とのクラス別集会が持たれ、学生生活の指針について等の話し合いが行われました。最後の学生団体からの催しには、今年は二十団体、百名以上のサークル部員が参加し、大いに盛り上がりました。二十四日は朝の默礼の後、ボランティア活動について小川ボランティア主事の講話があり、続いて四年次生の志賀綾子さん、卒業生の佐藤浩雄さんの感動的な体験談の発表がありました。そして、閉会礼拝で全行事を終了しました。新入生諸君には、このオリエンテーションを契機として、是非充実した学生生活を送っていただ

## 新入生オリエンテーション報告

# 将来に向けての結果と現状を踏まえて

## ――昨年度の結果と現状を踏まえて――

一九九七年度の就職状況は、長い間存続した就職協定が廃止されたことにより大きく変化しました。実際の協定廃止が昨年一月であつたため、各企業ではすでに決定した採用活動計画で動いたとはいえ、やはり採用活動は早期化・長期化・多様化の様相を呈しました。また、首都圏の景気が回復基調ということもあって初期段階ではヒターン学生があまり戻ってこなかつたため、本学学生の内定状況は順調にスタートし、過去最高の内定率を確保することが出来ました。

昨年の特徴の一つは長引く不況の中で企業が生き残りを図るため、より質の高い優秀な学生を確保すべく、他社よりも早く接觸を図ろうと積極的な採用活動が展開されました。前号にも書きましたが、優秀な学生はどの企業でも欲しい人材であることに変わりありません。学生としてはいかに自分を売り込むか、いかに自分をアピールするかです。

第二の特徴は、採用活動の早期化で学生の中には十分な企業研究をしないまま就職活動に入ってしまった者が多く、折角内定をもらつたにもかかわらず、より良い就職先を求め、更に活動を継続し、結果として多重内定による内定辞退者が多く出たことです。その反面、就職活動を甘くみたため準備不足が原因でなかなか内定をもらえない学生も居りました。つまり、学生の間で二極化が進みました。

第三の特徴は、インターネットによる採用活動が増えたことです。首都圏では説明会の参加予約や応募申込みをインターネットだけ受付をするといった企業が大幅に増えました。こういった企業の動きに対応するため、就職相談室では昨年末新たに学生用パソコンを設置しインターネットによる情報収集にも万全を期しています。

ところで、一九九八年度はどうなるのでしょうか。就職協定が廃止された中で、更に厳しい就職戦線が予想されます。四年次生諸君は、今年四月の第八回就職ガイダンスを経て、本格的な就職活動に入り、既に二ヶ月が経過しました。各企業はより優秀でかつ自社に合った人材を確保するため、エントリーシートや論作文を事前に提出させたり、面接の回数を増やしたりして、採用方法の多様化による厳選採用を進めています。これは企業自身がミスマッチを避けるためであり、この厳選採用を乗り越えるため、学生諸君は自己分析を再度チェックしたり、企業研究を重ねるなど、採用試験に備えています。企業の求める人材は時代と共に変わって来ていますが、やはり早い時期からしっかりと自己分析や企業研究をした学生が就職活動の勝者となるのです。

いつも述べる通り、企業選択に当たってはまず自分が興味ある業界を中心に、その企業で「何をやりたいのか」「何ができるのか」など自己分析との関連性を考え、自分を客観的に見つめ企業選択や職種選びをすることが大切です。単に知名度や企業の規模ばかり注目することなく、小規模であっても将来性のある優良企業や、自分の能力が十分に発揮できる企業、仕事にやりがいを感じられる企業を選択することが大切です。

セミナーや説明会など採用スケジュールの相談室では採用活動の早期化に対応するため、四月に第一回就職ガイダンスを行いましたが、今年は昨年より回数を増やすとともに、就職活動に必要な事項を更に詳しく取り上げ、内容を充実させたガイダンスを実施すべく計画しています。学生諸君も自分なりに就職について真剣に考え、資料請求、企業研究及び自己分析など、早日の準備に取り掛かって下さい。

最後に、現在就職活動中の四年次生諸君は厳しい就職環境ではありますが、最後まであきらめることなく、真剣にそして積極的に就職活動に臨んで下さい。成功を祈ります。

(就職委員会・就職相談室)

企業では昨年より今年、今年より来年と、セミナーや説明会など採用スケジュールの更なる早期化が予想されます。三年次生諸君はより早い時期から自己分析や企業研究を行つておく必要があります。就職相談室では採用活動の早期化に対応するため、四月に第一回就職ガイダンスを行いましたが、今年は昨年より回数を増やすとともに、就職活動に必要な事項を更に詳しく取り上げ、内容を充実させたガイダンスを実施すべく計画しています。学生諸君も自分なりに就職について真剣に考え、資料請求、企業研究及び自己分析など、早日の準備に取り掛かって下さい。

最後に、現在就職活動中の四年次生諸君は厳しい就職環境ではありますが、最後まであきらめることなく、真剣にそして積極的に就職活動に臨んで下さい。成功を祈ります。

(就職委員会・就職相談室)

敬和学園大学後援会主催の三年次生の保護者を対象とした就職懇談会は、毎年秋に開催されてまいりましたが、六月二日の後援会・就職委員会合同会議で、今年は七月二十五日(土)に繰り上げ、午後三時から開催することが決まりました。

昨年就職協定が廃止され、企業の採用活動が数ヶ月前倒し傾向にあることはすでにご承知のことと思います。本学もこの対策として早期の立ち上がりを強く指導した結果、昨年度の内定率が過去最高の九十四・二%となったことは、非常に喜ばしいことです。しかし、長引く不況から企業は採用を抑制しており、その影響で少

### 保護者就職懇談会 のお知らせ

敬和学園大学後援会主催の三年次生の保護者を対象とした就職懇談会は、毎年秋に開催されてまいりましたが、六月二日の後援会・就職委員会合同会議で、今年は七月二十五日(土)に繰り上げ、午後三時から開催することが決まりました。

昨年就職協定が廃止され、企業の採用活動が数ヶ月前倒し傾向にあることはすでにご承知のことと思います。本学もこの対策として早期の立ち上がりを強く指導した結果、昨年度の内定率が過去最高の九十四・二%となったことは、非常に喜ばしいことです。しかし、長引く不況から企業は採用を抑制しており、その影響で少

1998年度敬和学園大学公開講座

# 「知の探求」

■日 時／1998年9月18日～11月13日 毎週金曜日 19:00～20:30 ※但し、10月9日を除く

※第1回（9/18）は、開講式のため、18:45から

■会 場／新発田市生涯学習センター（Tel 0254-26-7191）

■参加費／3,000円

■申込み／8月3日（月）から28日（金）までの間に参加費を添えて

新発田市生涯学習センター又は敬和学園大学総務課へ

| 月 日    | 講 義 題 目                       | 講 師       |
|--------|-------------------------------|-----------|
| 9月18日  | 開 講 式<br>文学における知の探求           | 学長 北垣宗治   |
| 9月25日  | 環境と倫理                         | 講師 矢嶋直規   |
| 10月2日  | 21世紀の地球環境を考える                 | 教授 菅野浩    |
| 10月16日 | 新発田藩と会津藩～恩讐を超えた交わり            | 歴史家 星亮一   |
| 10月23日 | 町（街）としてのワシントン                 | 講師 中村義実   |
| 10月30日 | 世界人権宣言五十周年にあたり、あらためて人権の問題を考える | 講師 福王守    |
| 11月6日  | インターネットの役割～グローバル・ブレイン         | 教授 安藤司文   |
| 11月13日 | 中国におけるイスラーム文化<br>閉 講 式        | 助教授 松本ますみ |

[主催] 敬和学園大学 新発田市大字富塚1270番地 Tel 0254-26-3636

[共催] 新発田市生涯学習センター 新発田市中央町5-8-47 Tel 0254-26-7191

## —式次第—

### 【第一部】

#### 講 演

「採用環境・選考方法の実態と就職に対する

家庭の支援策について」

（株）日本文化科学社 営業部次長 稲葉 清一氏

「本学における就職指導への取り組みについて」

敬和学園大学就職委員長 斎藤 祐介助教授

敬和学園大学就職相談室長 石田 幸夫

### 【第二部】

立食パーティーによる懇談会

日 時 一九九八年七月二十五日（土）  
場 所 午後三時から  
新潟市西堀通七番町一五七四番地  
○二五一一二二四一五一一一

目的に採用活動を行っております。就職運動を成  
功させるためには大学だけではなく、家庭でも  
企業のことを積極的に研究ねがい、お子様のご  
希望を確かめながらなるべく早期に活動に入っ  
て頂きたいと願っております。  
当日は、第一部では就職問題の専門家の講演  
と、大学としての取り組みを保護者の皆様にご  
理解いただくことを目的としており、ご質問も  
受け付けます。第二部では、本学教員との自由  
な懇談をもっていただきます。  
後援会として最も重要視している催しです  
ので、多くの方々のご出席をお待ちしております。  
(すでにご案内は郵送させていただいておりま  
すが、締め切り日が迫っておりますので、ご出  
席のお返事がお済みでない方は本学総務課まで  
ご連絡をお願いいたします。)

敬和学園大学では、就職問題の専門家の講演  
と、大学としての取り組みを保護者の皆様にご  
理解いただくことを目的としており、ご質問も  
受け付けます。第二部では、本学教員との自由  
な懇談をもっていただきます。  
後援会として最も重要視している催しです  
ので、多くの方々のご出席をお待ちしております。  
(すでにご案内は郵送させていただいておりま  
すが、締め切り日が迫っておりますので、ご出  
席のお返事がお済みでない方は本学総務課まで  
ご連絡をお願いいたします。)

# 一九九八年度入試の結果と一九九九年度入試の概要

—入試制度が大きく変わります—

さる三月十三日の一般入試（後期日程）を最後に、一九九八年度の入学試験がすべて無事に終了しました。

さて、新聞報道等でご存じの方も多いと思いますが、私立大学、とりわけ地方の単科大学での入試環境は一段と厳しさを増しております。本学の一九九八年度の入試結果については表をご覧ください。本学は近隣の大学と比較しますと堅実な方ですが、それでも残念ながら志願者が減少してしまいました。入学者については希望通りの二四〇名（外国人留学生を含む）を迎えることができましたが、一定数の入学者を確保するためにも志願者の増加が望まれます。

そこで入試委員会では慎重な、しかし白熱した議論を重ねて一九九九年度の入試概要案をまとめ、教授会でそれが承認されました。

一九九九年度の入試制度は従来のものと大きく変わります。初めてご覧になる方は唐突な印象を受けるかもしれません、これは担当者が数年前から調査・分析を重ね、今後の入試動向を、単に数学の面のみならず、質的な面にまで踏み込んで予測した結果を踏まえたものです。この新しい入試制度は単に志願者を増加させることだけが目的ではなく、真のねらいは「本学の教育内容にふさわしい入学者を確保する」ことにあります。

推薦入試については高等学校からこの制

度が高く評価されていることもあります。従来の方法を継承します。本学の教育内容等をよく理解した上で校長先生の推薦をいただいて出願する専願制の試験です。

一般入試（A日程、2科目型）は従来の

前期日程に相当するもので、英語、国語、調査書でバランスのとれた学力を見ます。

一般入試（B日程、1科目型）【新設】は、本学の従来の入学試験とはまったく異なるタイプの1科目入試です。試験場で英語と国語の問題内容を確認してから、その場で受験科目を選択します。A日程とB日程は両方に出席できますから、併願校の試験日と重なり本学を受験できなかつた方は朗報となります。

一般入試（C日程、課題面接型）【新設】は、課題を与えられて準備した後に面接試験を行う、新しい発想の入学試験です。「筆記式の入学試験になると緊張してしまって……」という方は、ぜひこのC日程での受験を考えてください。

堅調な一般入試（センターハイスクール）に変更はありません。なお、このセンターハイスクールによる成績上位の入学者については、募集人員の範囲内で奨学金を支給します。

今後も厳しい入試環境が続きますが、本学の充実した教育内容と教授陣、学生の質の高さを的確に高校生に伝え、より多くの方が本学を志願されるよう、関係者一同努力いたしますので、今後もよろしくご理解とご支援のほどをお願いいたします。

## 私のゼミ紹介

北嶋藤郷

英語英米文学科は、人類が育んできた言語や文化、価値観を総合的に学ぶことを目標としますが、私の「ゼミ」では主に20世紀アメリカ文学の小説を中心に据えて考えています。

活発に意見が述べやすい小グループによる「ワークショッピング」形式を考えています。日本の大学ではまだあまりなじみのないこの方法について説明すると、例えば、ヘミングウェイの『インディアン部落』の基本読み解きを終えた学生たちは、自分なりの考え方をもって講義に参加します。複数のレポーターをあらかじめ決めておき、それぞれのレポーターが小组赛で発表し、その発表をもとにグループ内で討議を行います。さらにその後で、それぞれのグループの討議内容の要旨を、グループの司会者が全体討議の場で報告し、それをもとに全体で討論を行うという形式です。この形式では発表者の意見に触発されて、その場で思いついたことなども自由に意見が述べやすく、学生一人ひとりが討論に加わることが容易となります。ゼミに参加する諸君も熱心でやる気があり、その発言も大変刺激的で、教える側に立ちながらいろいろ学ぶところが多くあります。

遠い昔の学生時代に、アメリカ小説の読み方は野崎孝先生から、シェイクスピアの面白さは小津次郎先生から教わりました。「一羽の雀が落ちるのも神の摂理」という佳句は、様々な局面で私を支えてくれたハムレットの台詞です。私のゼミの学生諸君も、原書を読み進む楽しい過程で、人生を支えてくれる「名句」に邂逅してもらいたいと願っています。

西村秀雄（入試室主幹）

# 1998年度敬和学園大学入試試験結果

1998年4月3日現在 (単位:人)

| 区分                         |         | 募集人員 | 志願者数     | 受験者数     | 合格者数     | 入学者数     | 競争率 |
|----------------------------|---------|------|----------|----------|----------|----------|-----|
| 推薦入試                       | 英語英米文学科 | 45   | 69(51)   | 67(51)   | 60(45)   |          | 1.1 |
|                            | 国際文化学科  | 45   | 59(28)   | 59(28)   | 59(28)   |          | 1.0 |
|                            | 計       | 90   | 128(79)  | 128(79)  | 119(73)  |          | 1.1 |
| 一般前期                       | 英語英米文学科 | 35   | 113(55)  | 112(54)  | 97(50)   |          | 1.2 |
|                            | 国際文化学科  | 35   | 127(32)  | 126(32)  | 100(31)  |          | 1.3 |
|                            | 計       | 70   | 240(87)  | 238(86)  | 197(81)  |          | 1.2 |
| 一般後期                       | 英語英米文学科 | 10   | 19(8)    | 12(4)    | 9(4)     |          | 1.3 |
|                            | 国際文化学科  | 10   | 18(7)    | 12(7)    | 9(6)     |          | 1.3 |
|                            | 計       | 20   | 37(15)   | 24(11)   | 18(10)   |          | 1.3 |
| センター試験利用                   | 英語英米文学科 | 10   | 113(63)  | 113(63)  | 90(53)   |          | 1.3 |
|                            | 国際文化学科  | 10   | 111(39)  | 111(39)  | 88(35)   |          | 1.3 |
|                            | 計       | 20   | 224(102) | 224(102) | 178(88)  |          | 1.3 |
| 一般計                        | 英語英米文学科 | 55   | 245(126) | 237(121) | 196(107) |          | 1.2 |
|                            | 国際文化学科  | 55   | 256(78)  | 249(78)  | 197(72)  |          | 1.3 |
|                            | 計       | 110  | 501(204) | 486(199) | 393(179) |          | 1.2 |
| 合計<br>(外国人留学生)<br>(編入学を除く) | 英語英米文学科 | 100  | 314(177) | 304(172) | 256(152) | 115(72)  | 1.2 |
|                            | 国際文化学科  | 100  | 315(106) | 308(106) | 256(100) | 121(47)  | 1.2 |
|                            | 計       | 200  | 629(283) | 612(278) | 512(252) | 236(119) | 1.2 |
| 外国人留学生入試                   | 英語英米文学科 | 若干名  | 0(0)     | 0(0)     | 0(0)     | 0(0)     | —   |
|                            | 国際文化学科  | 若干名  | 5(2)     | 5(2)     | 5(2)     | 4(2)     | 1.0 |
|                            | 計       | 若干名  | 5(2)     | 5(2)     | 5(2)     | 4(2)     | 1.0 |
| 編入学                        | 英語英米文学科 | 若干名  | 3(2)     | 3(2)     | 3(2)     | 3(2)     | 1.0 |
|                            | 国際文化学科  | 若干名  | 2(1)     | 2(1)     | 2(1)     | 2(1)     | 1.0 |
|                            | 計       | 若干名  | 5(3)     | 5(3)     | 5(3)     | 5(3)     | 1.0 |

※( )内は女子で内数

我々はその全国大会に過去二度出場しました。一度目は一昨年秋に栃木県日光市で行われた東日本大学軟式野球選手権大会です。残念ながら一回戦で中央学院大学に敗れましたが軟式野球部創立以来初の全国大会出場でした。二度目は昨年の春、千葉県で行われた全日本大学軟式野球選手権です。この時は二回戦からの出場となりましたが、大阪学院大学に惜敗してしまいました。しかし、この二度の全国での経験は確実に我々の力を高めました。そして現在、この夏に長野県で行われる全日本大学軟式野球選手権大会の新潟県予選(新大、新大医学部、歯学部、経営大、工科大、薬科大、国際情報大、敬和学園大のハチームが参加)で、すでに全勝で決勝リーグ出場を決めています。この予選で優勝しなければ全国大会へのキップを得ることできませんが、皆さんのがこの文章が読まれる頃には必ずそのキップを手に入れているはずです。応援よろしくお願いします。

我々軟式野球部は、選手二十名、マネージャー六名の計二十六名で活動しています。練習は主に火、木、土曜日の週三回行い、月に一回程度の練習試合を行い、全国大会での勝利に目標をおいて取り組んでいます。



## 軟式野球部

軟式野球部主将 藤田 勝彦

クラブ紹介

# 後援会だより

敬和学園大学後援会の平成十年度（一九九八年度）総会が、四月三日大学入学式後に開催され、約二五〇名の会員出席のもので、総会次第にしたがって順次進められました。本総会には、懇々学園側から後宮理事長、北垣学長（共に本会顧問）からご臨席の上、ご丁重な祝辞をいただきました。

（単位：円）

| 収入の部  |            |            |
|-------|------------|------------|
| 科目    | 予算額        | 決算額        |
| 前年度繰越 | 15,549,405 | 15,549,405 |
| 会費    | 42,000,000 | 39,700,000 |
| 雑収入   | 100,000    | 220,535    |
| 合計    | 57,649,405 | 55,469,940 |

| 支出の部    |            |            |
|---------|------------|------------|
| 科目      | 予算額        | 決算額        |
| 事業活動費   | 3,000,000  | 2,712,748  |
| 会議費     | 300,000    | 320,223    |
| 事務費     | 400,000    | 76,892     |
| 通信費     | 1,600,000  | 1,089,115  |
| 印刷費     | 2,000,000  | 1,426,780  |
| 学生クラブ補助 | 5,000,000  | 5,181,630  |
| 教職員活動補助 | 600,000    | 0          |
| 施設補助    | 39,000,000 | 40,428,688 |
| 旅費交通費   | 200,000    | 183,140    |
| 雑費      | 549,405    | 309,186    |
| 予備費     | 5,000,000  | 0          |
| 支出の部計   | 57,649,405 | 51,728,402 |
| 次年度繰越   |            | 3,741,538  |
| 合計      | 57,649,405 | 55,469,940 |

総会では、平成九年度決算、平成十年度事業計画案及び事業案に対し、満場一致で承認されました。又卒業に伴って、三名の役員交替を含めた、会長を始め役員の改選につきましても承認をいたしました。以下総会議決、承認内容についてご報告いたします。

（単位：円）

| 収入の部    |            |            |
|---------|------------|------------|
| 科目      | 1998年度     | 1997年度     |
| 1. 後援会費 | 42,000,000 | 42,000,000 |
| 2. 寄付金  | 1,000      | 0          |
| 3. 雜収入  | 200,000    | 100,000    |
| 4. 繰越金  | 3,741,538  | 15,549,405 |
| 合計      | 45,942,538 | 57,649,405 |

**基本方針**  
本後援会は規約に基づき、会員相互の連絡を図り、大学と密接な連携のもとに、学生の学術向上と大学の施設設備の改善等、本大学発展のため物心両面にわたり積極的に協力援助する。

## 事業計画

- **自立事業**
  - (1) 会員相互の連絡強化と親睦及び大学との連携を深めるための保護者懇談会開催
  - (2) 就職率を高めるための企業との懇談会開催
  - (3) その他役員会で決定した事業
- **協力援助事業**
  - (1) 学生クラブ活動に対する援助
  - (2) 教育施設設備に対する援助、特に体育館新築に対する継続援助
  - (3) ケイワ・カレッジ・レポート発行に対する援助
  - (4) 新入生歓迎公開学術講演会に対する補助
  - (5) 卒業生、教職員、保護者合同による卒業記念祝賀会協力援助
  - (6) 教職員研修活動補助
  - (7) 敬和祭に対する援助
  - (8) 学生開放施設（アネックス）維持管理費の援助
  - (9) その他役員会で決定した事項

| 職名  | 氏名           | 住所                                | 業                    |
|-----|--------------|-----------------------------------|----------------------|
| 会長  | 岩村忠衛 5回生保護者  | 〒957-0061 新発田市住吉町2-6-23           | (株)岩村養鶏 代表取締役        |
| 副会長 | 中山いつ子 6回生保護者 | 〒957-0007 新発田市小舟町3-2-29           | 主婦                   |
| 副会長 | 石井富男 7回生保護者  | 〒957-0347 新発田市大字大友1683            | 新潟県労働金庫 業務部副部長       |
| 理事  | 鈴木恵子 7回生保護者  | 〒950-0911 新潟市笹口3-5-1 エンゼルハイム笹口101 | 主婦                   |
| 理事  | 海津博 8回生保護者   | 〒957-0053 新発田市中央町5-4-14           | (株)カイツ自動車 代表取締役      |
| 理事  | 尾川夕工子 8回生保護者 | 〒951-8113 新潟市寄居町697               | 主婦                   |
| 監事  | 菅原晃 6回生保護者   | 〒957-0052 新発田市大手町1-2-16           | 菅原呉服店主               |
| 監事  | 高澤正 8回生保護者   | 〒959-2526 新発田市大字中妻74              | (株)新発田ヤクルト販売 取締役総務部長 |

| 岩村会長挨拶  |  |
|---|--|
| 会員各位には平素から敬和学園大学並びに同後援会に対し、格別のご支援ご協力をいただきおり衷心より感謝申し上げます。      |  |
| 去る四月三日開催の平成十年度総会におきまして提案いたしました、各案件すべて可決承認されました。誠にありがとうございました。 |  |
| 特に役員選任につきましても、不肖私を  |  |
| 特に役員選任につきましても、不肖私を  |  |
| 学事予告  |  |
| 七月十四日   |  |
| 十五日   |  |
| 十六日   |  |
| 十七日   |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
| 二十二日  |  |
| 二十三日  |  |
| 二十四日  |  |
| 二十五日  |  |
| 二十六日  |  |
| 二十七日  |  |
| 二十八日  |  |
| 二十九日  |  |
| 三十日   |  |
| 二十一日  |  |
|   |  |

## FROM CAMPUS

## 4月

- 1日 学年始め  
新規専任教員(4名)辞令交付
- 3日 入学式  
後援会総会
- 4日 新入生歓迎公開学術講演会  
講師 一橋大学長 阿部謹也先生  
「いかにして教養を身につけるか」
- 7日 交通安全講演会
- 8日 前期講義開始
- 10日 チャペル・アッセンブリー・アワー①  
講師 北垣宗治学長「良い金曜日(Good Friday)」
- 13日 後援会役員会
- 15日 教授会
- 17日 チャペル・アッセンブリー・アワー②  
講師 荒井俊次 日本クリスチヤンアカデミー所長  
「トマスの話」
- 23日 新入生オリエンテーション  
／胎内パークホテル(～24日まで)
- 27日 オレンジ会役員会

## 5月

- 1日 チャペル・アッセンブリー・アワー③  
講師 延原時行宗教部長「黄金律」  
北嶋藤郷教授「風土と文学」
- 6日 敬和フォーラム  
講師 矢嶋直規講師  
「ヒューム道德哲学における共感概念について」
- 8日 チャペル・アッセンブリー・アワー④  
講師 森本あんり 国際基督教大学准教授「人格を作る」
- 12日 学園常務委員会
- 13日 教授会
- 14日 第1回 聖籠町公開講座  
講師 北垣宗治学長「家庭と学校と社会—子どもの教育に対する責任は誰が持つのか?—」  
公認会計士による会計監査(～15日まで)
- 15日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑤  
講師 福井達雨 止揚学園園長  
「あなたは何処へ行くのですか」
- 16日 田植えボランティア(1年生)



◀5/16  
田植えボランティア

- 20日 第1回 関屋地区公民館公開講座  
講師 北垣宗治学長  
「ロングフェローと小学唱歌」
- 21日 第2回 聖籠町公開講座  
講師 C.ジョイ・ウイリアムズ  
講師「外国人の子どもが日本で受けている教育」



▼5/21  
第2回 聖籠町公開講座

## キャンパス日誌

- 22日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑥  
講師 鳥飼慶賜 番町出合いの家牧師  
「一粒の麦—賀川豊彦の夢と冒険—」
- 25日 理事会・評議員会
- 27日 第2回 関屋地区公民館公開講座  
講師 松崎洋子教授「レイモンド・カーヴァーの世界」
- 28日 第3回 聖籠町公開講座  
講師 益谷 真助教授「罪の感情・キレる感情」
- 29日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑦  
講師 矢嶋直規講師「魂の革命」  
小川文勝ボランティア主事「福祉体験学習について」

## 6月

- 3日 教授会
- 第3回 関屋地区公民館公開講座  
講師 若月忠信 非常勤講師  
「坂口安吾とブルーノ・タウトの『日本文化史観』」
- 4日 第4回 聖籠町公開講座  
講師 長川正江 非常勤講師  
「学校の考えていること  
—学校教育の目標—」
- 5日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑧  
講師 延原時行宗教部長  
「けがれた靈よ、出て行け」  
講師 高橋 弘 淑徳大学教授  
「現代とファンタジー」
- 敬和フォーラム 講師 高橋 弘 淑徳大学教授  
「モルモン教と宗教多元主義」
- 放送大学との単位互換協定調印式
- 10日 第4回 関屋地区公民館公開講座  
講師 桑原ヒサ子助教授  
「ゲーテの『若きウエルテルの悩み』を読む」
- 11日 第5回 聖籠町公開講座  
講師 神村栄一 新潟大学助教授  
「病んでいる教師と学校—新潟のマインド・ヘルスー」
- 12日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑨  
講師 長谷川榮作 聖籠町前町長  
「生と死の極限に生きて」
- 17日 第5回 関屋地区公民館公開講座  
講師 アラン・ブロンテ教授 (訳北嶋藤郷教授)  
「ハムレットの意味と死の意味」
- 18日 第6回 聖籠町公開講座  
講師 柴沼晶子教授「子どもの主体性を育てる」
- 19日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑩  
講師 延原時行宗教部長・Two Tenors
- 24日 第6回 関屋地区公民館公開講座  
講師 伊藤豊治教授  
「ウイリアム・ゴールティングの『通過儀礼』」
- 26日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑪  
講師 山田耕太教授・卒業生(平野順也・長瀬三紀)



▲6/5  
放送大学との単位互換協定調印式